

第3章 エコまちづくりの先進事例調査

1. エコまちづくりの先進事例調査

東郷セントラル地区における、エコまちづくりの参考となる先進事例調査の結果を以下に示す。

なお、その他の事例調査結果は、参考資料に掲載する。

表 3-1 先進事例調査一覧表

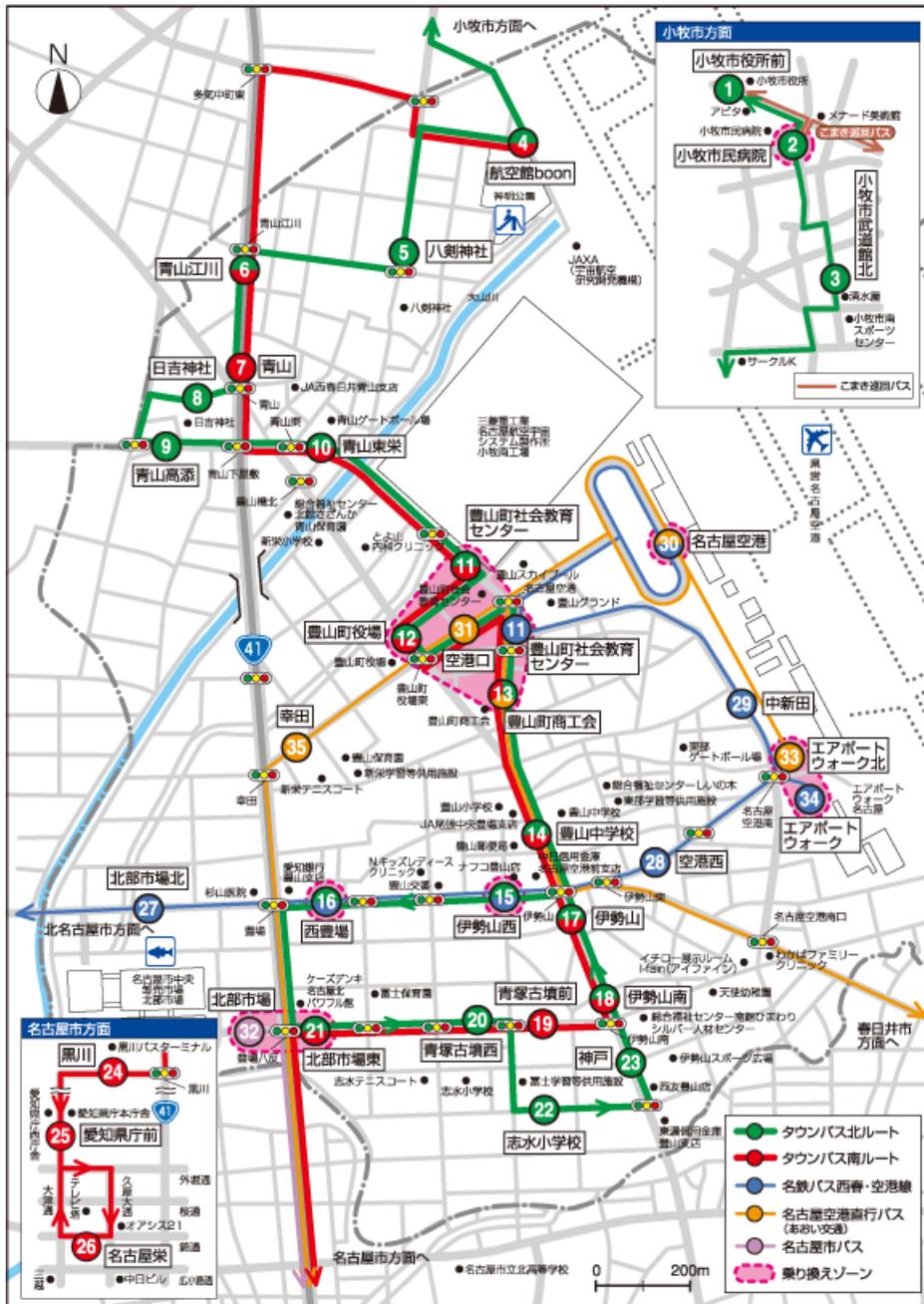
分類	類型	事例名称	所在地
1. 環境にやさしい交通体系	バス・自転車施策の事例	都市間連絡バスとコミュニティバスとの連携	愛知県豊山町
	パーク&ライド、サイクル&ライドの導入事例	イオンモールむさし村山 敷地内の交通広場(ロータリー)がコミュニティバスの乗り継ぎ拠点	東京都武蔵村山市
2. エネルギー消費量の削減	エネルギーの面的利用・ネットワーク化事例	柏の葉キャンパスシティ148街区	千葉県柏市
		エコライフタウン練馬高野台	東京都練馬区
	未利用・再生可能エネルギーの導入事例	イオンレイクタウン CO2削減に向けた様々な取組を実施	埼玉県越谷市
3. 市街地整備における環境配慮	風、緑、水を活かした市街地整備事例	諏訪野 緑陰住宅	福島県伊達市
		越谷レイクタウン	埼玉県越谷市
	タウンマネジメント	飯田まちづくりカンパニー	長野県飯田市

2. 環境にやさしい交通体系事例

(1) 都市間連絡バスとコミュニティバスとの連携

類 型	バス・自転車施策の事例
調査の目的	都市間連絡バスの導入実績を調査し、東郷セントラル地区への導入の可能性を検討する。
事例名称	都市間連絡バスとコミュニティバスとの連携
施設の種類	シャトルバス
導入施設	—
施設規模	—
所在地	愛知県豊山町
運営主体	あおい交通（株）
仕組み、特徴など	
<p>「豊山町には鉄道がないが、バス路線が充実」</p> <p>○先進的な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民間バス事業者に町が委託し、名古屋駅に直結する豊山タウンバスを運行。 ・ 町内に乗り換え拠点を設置。 ・ 社会教育センターや、豊山町役場の駐輪場を活用したサイクル&ライドを実施。 <p>○特 徴</p> <p>■とよやまタウンバス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間に1本運行で、豊山町内は100円均一。名古屋栄までは500円。 ・ 豊山町内を巡回し、黒川、愛知県庁、名古屋栄に直結（南ルート） ・ 豊山町内を巡回し、小牧市方面へ。小牧市民病院の通院などに便利な小型のバス。 <p>■名鉄バス西春・空港線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間に約2本運行で、名古屋空港から町内のバス停を経由し西春駅までを約20分（330円）。 ・ 西春駅からは鉄道を利用し、バスと鉄道合わせて名古屋駅まで約50分。 <p>■あおい交通名古屋空港直行バス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間に約2本運行で、名古屋駅まで約30分（700円）。 ・ 栄も経由（往路のみ） ・ 春日井市の味美駅・勝川駅へ行く便もある。 	

便利に活用すれば、快適でエコロジー！



バス路線図

(2) イオンモールむさし村山 敷地内の交通広場（ロータリー）がコミュニティバスの乗り継ぎ拠点

類 型	パーク&ライド、サイクル&ライドの導入事例
調査の目的	商業施設へのパーク&ライド、サイクル&ライドの導入実績を調査し、東郷セントラル地区への導入の可能性を検討する。
事例名称	イオンモールむさし村山 敷地内の交通広場（ロータリー）がコミュニティバスの乗り継ぎ拠点
施設の種類	ショッピングセンター
導入施設	スーパー、専門店街、レストラン街、シネコン、武蔵村山情報館、交通プラザ（交通広場）、歩行者用通路1号、歩行者用通路2号等
施設規模	敷地面積：137,000 m ² 、延床面積：約150,000 m ² 、開業 施設面積：約84,000 m ² 、駐車台数：約4,000台
所在地	東京都武蔵村山市、立川市
運営主体	イオンモール(株)

仕組み、特徴など

「コミュニティバスと連携したショッピングセンター」

○特徴

- ・最寄りの鉄道駅を持たない立地でありながら、自社のシャトルバスを持たず、路線バスや武蔵村山市のコミュニティバス（MMシャトル）と連携。
- ・敷地内の交通プラザ（バス乗り場）を設けており、MMバスの乗り継ぎポイントの1つとなっている。バス乗り場に隣接して駐輪場を設置し、サイクル&ライドも導入している。
- ・「交通プラザ」（2400 m²）は地区計画で「地区施設」として位置づけられ担保されている。
- ・同様に地区施設として、東西、南北の歩行者用動線となる「歩行者通路1号」、「歩行者通路2号」が位置づけられている。



交通プラザ

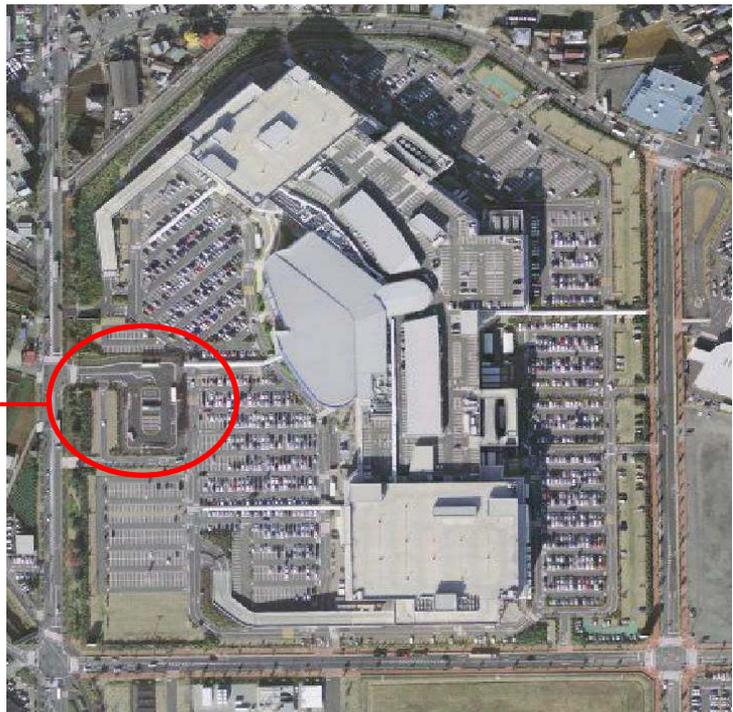


交通プラザと駐車場



交通広場に隣接する自転車駐輪場

交通プラザ



○周辺鉄道駅からのアクセス

- ・西武拝島線 玉川上水駅から：立川バス、MMシャトル（玉川上水ルート）
- ・西武拝島線 武蔵砂川駅から：MMシャトル（武蔵砂川ルート）
- ・西武拝島線 東大和市駅から：西武バス
- ・JR中央線 立川駅から：立川バス
- ・JR中央線 昭島駅から：立川バス
- ・JR八高線 箱根ヶ崎駅から：立川バス



3. エネルギー消費量の削減事例

(1) 柏の葉キャンパスシティ 148 街区

類 型	エネルギー面的利用・ネットワーク化事例
調査の目的	CO2 の排出削減における先導的な土地区画整理事業を調査し、東郷セントラル地区への導入の可能性を検討する。
事例名称	柏の葉キャンパスシティ 148 街区 (UDCKが事務局となり策定した柏の葉キャンパスタウン構想の具現化)
施設の種類	商業、オフィス、住宅、ホテル、駐車場他
導入施設	太陽光発電、風力発電、温泉熱利用、生ゴミバイオガス発電、太陽熱利用、排熱利用・複合型コージェネレーション
施設規模	148 街区を含む駅周辺地域の総敷地面積：約 127,000 m ² 商業・オフィス棟：延床面積 約 29,400 m ² (地上 7 階地下 1 階)、 ホテル・住宅棟：延床面積 約 24,000 m ² (地上 14 階地下 1 階)
所在地	千葉県柏市 柏都市計画事業柏北部中央地区 148 街区
運営主体	148 街区は三井不動産
仕組み、特徴など	
<p>「技術の進歩と規制緩和を視野に入れて CO2 削減目標を段階的に設定」</p> <p>○先進的な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2 排出量 60%削減 (2030 年) をコンセプトに掲げたスマートシティプロジェクト。 ・エネルギーの見える化と最適制御化による地域エネルギーマネジメントシステム※の導入。 ・災害時に限り、再生可能エネルギーをマンションに供給 (148 街区での先導的な取り組み)。 <p>○概要</p> <p>公民学の連携によって国際学術都市・次世代環境都市の創造をめざす「柏の葉国際キャンパスタウン構想」をもとに、三井不動産は民間事業者としてこの街づくりに参画。柏の葉では、エネルギー・地球環境問題対策、超高齢社会対策、日本経済再生という重点テーマを掲げ、の街に暮らす方への住宅、集う場としての商業施設、訪れる・働く人のためのホテルやオフィスなどを整備中。「スマートシティ」「健康長寿都市」「新産業創造都市」を実現するための事業展開を計画。2014 年春にスマートシティとして 148 街区が竣工予定。</p> <p>○CO2 削減目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来型の街づくりと比較して、2014 年で 21%、2030 年で 60%の削減 (148 街区建物単体では 40%の削減) <p>※地域エネルギーマネジメントシステム：住宅やビル、EV等の様々な需要対象を取り込み、エネルギー利用状況の集約・可視化、需要制御等の機能により適切に地域全体のエネルギー需給管理を行うもの。太陽光や風力等の自然エネルギーを最大限活用し、エネルギーの効率的利用を図ることを目的としている。(参考：経済産業省「スマートコミュニティの実現に向けた政策展開」平成 22 年 12 月)</p>	

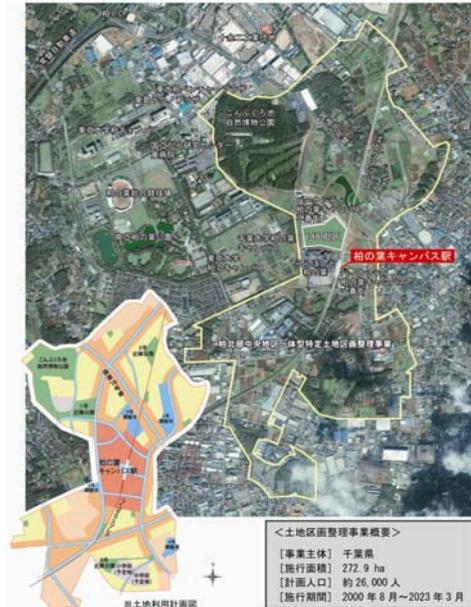
○特徴

■地域エネルギーマネジメントの先進性

- ・公民学が連携してマンション、住宅、商業施設、オフィスなど多彩な需要家が参加
- ・商業・オフィス棟とホテル・住宅棟の複合建物間でエネルギーの効率的な運用制御（電力融通なし）
- ・地域全体でのエネルギーの「見える化」を実現
- ・住民、テナント、来街者とともに地域のエネルギー状況を情報共有
- ・電力供給逼迫時には緊急メールによりピークシフトや停電回避策を提案

■エネルギー源の複線化

- ・ガス発電や自然・未利用エネルギー等を活用してエネルギー源を複線化
- ・停電時にも通常時の6割程度の電力供給を可能とし、センターで地域防災機能を一元管理
- ・災害時に限り、再生可能エネルギーをマンションに供給するなどの電力融通が認められる方針（経産省 2012. 8. 30 発表）。今後、設備を整備し 2014 年春より実施予定。



エネルギー網の複線化によりエリア全体の安心・安全を実現。



「AEMS: エリアエネルギー管理システム」をコアにエネルギー利用の最適化、地域相互の最適化を指向。

「柏の葉キャンパス」148駅前街区ではエネルギーの複線化、未利用エネルギーの徹底活用と効率的な運用でCO₂排出量の大幅な削減をめざします。さらに発・受電量、消費電力量などエネルギー利用と地域互換の最適化を実現するコアとして「エリアエネルギー管理システム (AEMS)」を新たに構築。このAEMSはエリア拡張と機能の充実を図りながら将来的には柏の葉全域で「スマートグリッド」機能を備えたネットワークの構築をめざしています。

- 太陽光発電
- 風力発電
- 地熱熱利用
- 生ゴミ/バイオガス発電
- 排熱利用・複合型コジェネレーション
- 太陽熱利用
- 各世帯の電気・ガス・水道使用量を見る化するCO₂削減見える化モニターの設置
- LED照明等の高効率機器の導入
- 消費電力を抑えるタスク&アンビエント照明・空調等
- 街全体の蓄電池としても機能する電気自動車のシェアリングシステム
- 電力のピークシフト/ピークカットを実現する、2,000kWhNAS蓄電池
- ピーク時の空調負荷を軽減する氷蓄熱装置

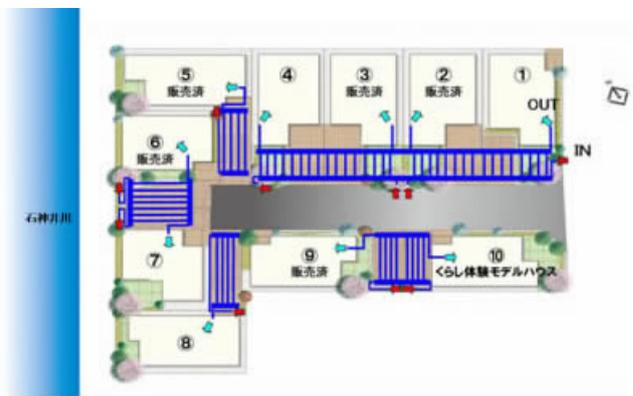
- 創 エネを実現する取り組み
- 省 エネを実現する取り組み
- 蓄 エネを実現する取り組み

エネルギーの見える化 ▶ 街全体のエネルギーの最適制御化 ▶ 地域相互の最適化
AEMSで成長し、発展し、つながり合う、柏の葉モデルのスマートシティへ。

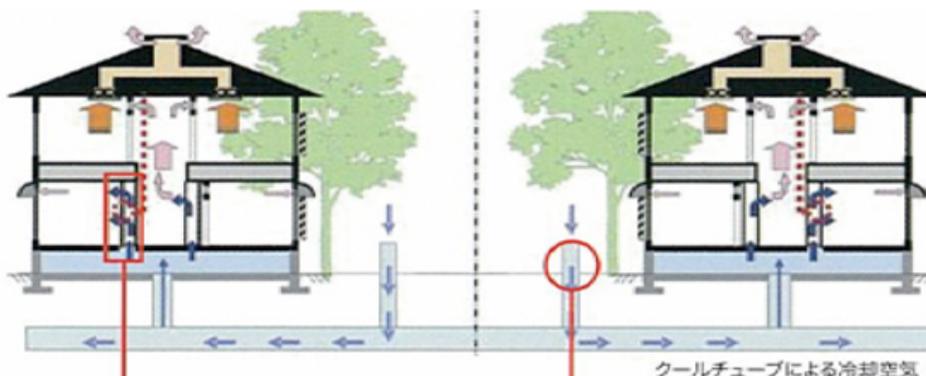
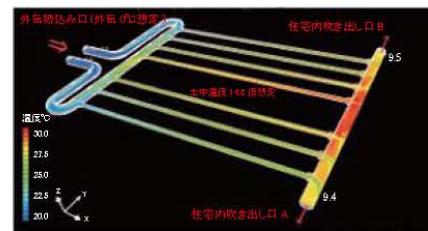
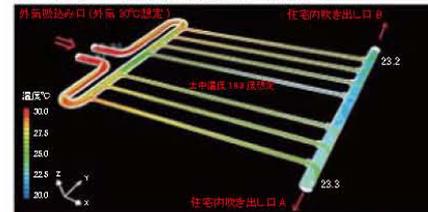
出典:「柏の葉キャンパスシティ」三井不動産ホームページ

(2) エコライフタウン練馬高野台

類 型	エネルギー面的利用・ネットワーク化事例
調査の目的	先進的な地中熱利用を調査し、東郷セントラル地区への導入の可能性を検討する。
事例名称	エコライフタウン練馬高野台（パナホーム㈱）
施設の種類	未利用・再生可能エネルギーの導入事例
導入施設	地中熱（クールチューブ）
施設規模	10戸
所在地	東京都練馬区
運営主体	個人
仕組み、特徴など	
<p>「地中熱を利用したクールチューブ付き戸建住宅」</p> <p>○先進的な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸建の建売住宅でクールチューブを採用。 ・クールチューブを各住戸単位で埋設するのではなく、複数住戸で連結してより高い効果を追求。 <p>○概要</p> <p>エコライフタウン練馬高野台は、国土交通省 平成20年度「第1回住宅・建築物省CO2推進モデル事業」に採択されたまち。</p> <p>地熱を利用する「クールチューブ」と、自然換気と機械換気による「ハイブリッド換気」を組み合わせたシステムを採用。クールチューブを各住戸単位で埋設するのではなく、複数住戸で連結してより高い効果を追求。</p> <p>クールチューブのシステムの計画は金沢工業大学垂水教授の指導を仰ぎ各種実験の結果、地盤面下2mにチューブを埋設しチューブ保護のために砂で保護。設置場所は建物の下にならない駐車場や庭部分。クールチューブをやめる住戸が発生して分断した場合にも、性能を発揮。チューブの設置費用は1万円/mで100万円/戸。補助事業により実現。</p> <p>モデル事業の提案では、クールチューブやハイブリッド換気システム以外にも遮熱網戸+LOW-E断熱窓による日射遮蔽・取得や「お知らせ節電盤（見える化）」などの総合的な省エネ・省CO2効果により、2,315kWh/年の省電力、984kg-CO2/年の省CO2で、経済的には約51,000円/年の節約が可能であることが謳われている。</p> <p>【地中熱利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーム+クールチューブ <p>年間通じて安定した地中温度を利用して、地盤下2mに埋設したチューブからの冷気(夏)・暖気(冬)を室内に取り込み、極力自然の力を利用したやさしい冷暖房でCO2負荷を低減。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド換気（自然換気と第2種換気） <p>4㎡cm/延床㎡の開口を配して自然換気と、ウォーム+クールチューブによる第2種換気で春夏秋冬のパターン制御で冷暖房負荷を低減。</p> <p style="text-align: right;">出典:「クリーンエネルギー」2009.12</p>	



●クールチューブ内の空気の流れ（解析）



■ハイブリット換気システム



■吸気口

(3) イオンレイクタウン CO2 削減に向けた様々な取り組みを実施

類 型	未利用・再生可能エネルギーの導入事例
調査の目的	最新の商業施設における未利用・再生エネルギー利用の導入実績を調査し、東郷セントラル地区に誘致する商業施設への導入の可能性を検討する。
事例名称	イオンレイクタウン CO ₂ 削減に向けた様々な取組を実施
施設の種類	複合商業施設（専門店、アウトレット店、レストラン、店舗、シネコン）
導入施設	ソーラーパネル、壁面緑化・緑化タイル、ハイブリッドガスシステム、電気自動車充電ステーション
施設規模	延床面積：約 393,000 m ² 、敷地面積 約 337,000 m ² 、 店舗面積：約 245,000 m ² （店舗数：710）、 駐車台数：約 10,400 台、駐輪台数：約 7,100 台
所在地	埼玉県越谷市
運営主体	イオン（株）

仕組み、特徴など

「日本最大のエコ・ショッピングモール」

○先進的な事項

- ・立地企業（イオン）の高いCSR（企業の社会的責任）理念に基づき、既存店舗と比較し CO₂ 排出量 20%以上削減（エコストア）を実現。
- ・CO₂ 削減のために積極的に環境設備：最新のコージェネレーションシステム（熱電併給）※や国内商業施設最大級の太陽光発電を導入。
- ・最新のコージェネレーションシステム導入方策にESP事業※を活用し専門事業者にて全てを委ねる。
- ・環境設備の導入や施設内緑化に国・県等の補助金を活用。

○コンセプト

- ・「低炭素」をキーワードにした街づくりを進める「越谷レイクタウン」の中心施設
- ・日本最大、アジア有数の巨大ショッピングセンター（店舗面積：約 24 万 m²）
- ・国内トップクラスのエコへの取り組み
- ・CO₂ 排出削減量は、イオンモール最大の 11,895t（年間実績）（当初の削減目標は 9,000t）

※コージェネレーションシステム：排熱を利用して動力・温熱・冷熱を取り出し、エネルギー効率を高める、新しいエネルギー供給システム

※ESP事業：設備導入費用、メンテナンス費用をエネルギー供給業者（日立）が担い、そこから供給されるエネルギーを適度な価格で購入する事業形態



01. ソーラーパネル



02. 壁面緑化・緑化タイル



04. 電気自動車 急速充電ステーション

○太陽光発電

- ・国内商業施設最大の設置面積（4,000 m²）のソーラーパネル（487kW）を建物屋上部、壁に設置。
- ・年間発電量：約 420,000kWh
- ・年間 CO2 排出削減量：約 175t

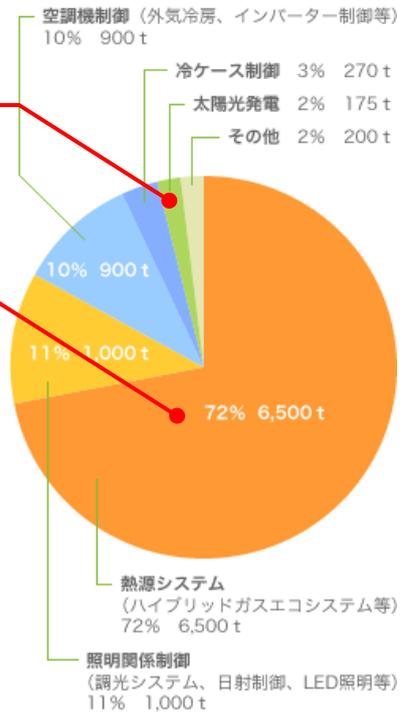
○最新のコジェネレーションシステム

- ・ハイブリッドガスエコシステムにより、発電した電気の一部を冷凍機に使い施設内冷房を実施。
- ・ハイブリッドガスエコ×1セット
排熱優先の高効率運転により成績係数(COP)：20%向上
- ・高効率ガスエコパック×5セット
高温低温の2つの排熱を有効利用して総合効率：約90%を実現
- ・太陽熱コジェネ排熱利用システム：太陽熱集熱器×1式と太陽熱とコジェネの低温排熱を有効利用
- ・年間 CO2 排出削減量：約 6,500t（削減量の72%）

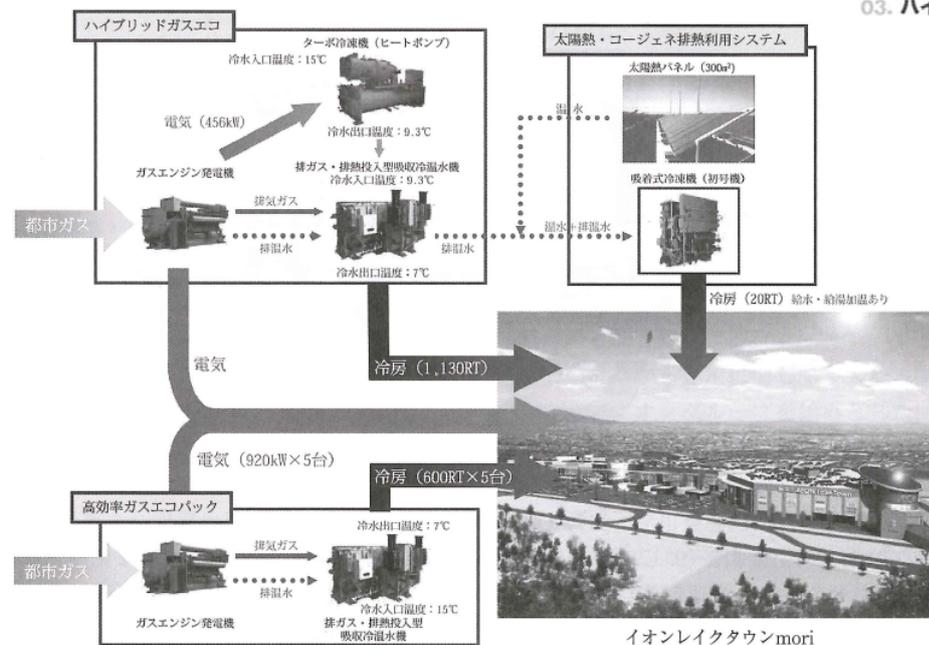
○その他導入設備

- ・照明制御、空調制御、冷ケース制御による省エネ
- ・電気自動車・急速充電ステーション

CO₂ 9000トン削減の内訳



03. ハイブリッドガスエコシステム



ハイブリッドガスエコシステム全体構成

4. 市街地整備における環境配慮

(1) 諏訪野緑陰住宅

類 型	風、みどり、水を活かした市街地整備事例
調査の目的	夏は木陰で涼しく、冬は室内に日が差し込む緑陰住宅の事例を調査し、東郷セントラル地区への導入の可能性を検討する。
事例名称	諏訪野 緑陰住宅
施設の種類	戸建住宅
導入施設	電線地中化、雨水浸透、集会施設の太陽光発電 緑地率 25% (分譲時点)
施設規模	街区面積：126,718.01m ² 、住宅戸数：288 戸 1995 年 3 月竣工
所在地	福島県伊達郡伊達市
運営主体	福島県住宅生活協同組合 消費組合法人 (消費生活協同組合法法律第 200 号)

仕組み、特徴など

「街並みは緑で経年良化する」

○先進的な事項

- ・まちづくりの企画段階から環境共生をコンセプトに。
- ・公民連携のもと、「電線地中化とセットで行った道路等への緑化」や「ゆとりある宅地内への積極的な緑化」が、10 年後大きく生長、良化し緑陰住宅を形成している。

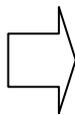
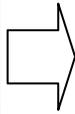


○概要

諏訪野住宅地は、福島市中心部から約 8 km 離れた伊達市の住宅地である。周辺は果樹園や田園が点在する自然環境に恵まれた地区である。コモンを導入した住宅地としては国内最大規模である。

企画段階から環境共生型の住宅地として、電線地中化や雨水浸透、積極的な緑化など、当時のまちづくりではさほど取り込まれていなかった、環境への負荷軽減を積極的に取り組んだことにより、環境共生型市街地モデル事業に認定された。

竣工から 12 年経過し、植栽された樹木は屋根を越えるまでに生長し、緑陰住宅と呼ぶに相応しい風格を醸し出し始めている。



1999 年

2012 年

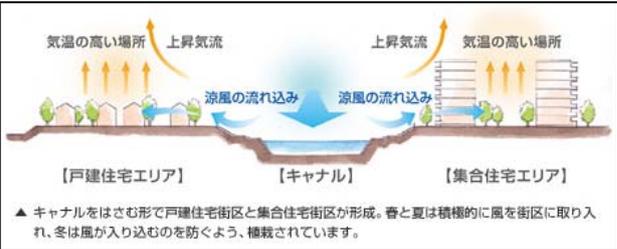
(2) 越谷レイクタウン

類 型	風、みどり、水を活かした市街地整備事例
調査の目的	夏は風を取り込み涼しく、冬は風を遮り温かい住宅の事例を調査し、東郷セントラル地区への導入の可能性を検討する。
事例名称	越谷レイクタウン 街開き街区（先導街区）の戸建住宅地
施設の種類	戸建住宅
導入施設	【住宅】太陽光発電、ヒートポンプ、地中熱利用、雨水タンク 【外構】保水性舗装、電線地中化
施設規模	面積：32,585.73㎡、住宅戸数：132戸 2008年3月まちびらき、2008年12月第1期販売開始
所在地	埼玉県越谷市
運営主体	大和ハウス工業
仕組み、特徴など	
<p>「水辺からの風を家に取り込む」</p> <p>○先進的な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅地の計画段階から風向きを考慮した住宅地計画（道路配置、建物の向き）。 （夏は東の風を取り込み、冬は北西の風を入れない街区構成） 環境に配慮した先導戸建街区の形成を目的に、UR（都市再生機構）が約3haのまとまった敷地について、民間事業者の事業コンペを実施。民間事業者のノウハウをまちづくりに導入。 <p>○概要</p> <p>越谷レイクタウン内の環境共生型の戸建住宅地。平成20年度の環境省「街区まるごとCO2・20%削減事業」認定される。</p> <p>事業地内の調節池（レイク）と運河（チャンネル）の広大な開放水面を活かし、夏場はチャンネルを通る風を取り込むことで気温上昇を抑え、冬場は北西の冷たい風を街区内に入れないように、街区の北西の住戸の沿道には高垣をめぐらして、街区全体で快適な環境を形成。</p> <p>街区全体について、CASBEE-まちづくりでSクラス（最高ランク）を取得するとともに、モデル棟について、CASBEE-すまい【戸建】でのSランク（最高ランク）を取得。</p>	

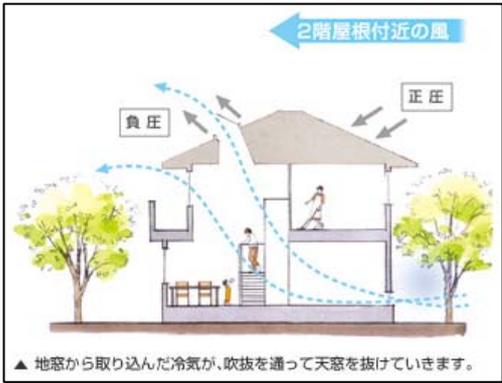


▲レイクからの涼風がキャナルを通り、居住街区に流れ込みます。

夏は東の風を取り込み、冬は北西の風を入れない街区構成



▲キャナルをはさむ形で戸建住宅街区と集合住宅街区が形成。春と夏は積極的に風を街区に取り入れ、冬は風が入り込むのを防ごうと、植栽されています。



▲地窓から取り込んだ冷気が、吹抜を通して天窓を抜けていきます。

住宅での風の取り込み



みどりの多いまちなみ



北西から風を遮る高垣

(3) 飯田まちづくりカンパニー

類 型	タウンマネジメント
調査の目的	まちの新しい運営組織として、タウンマネジメント会社等の事例を調査し、東郷セントラル地区への導入の可能性を検討する。
事例名称	飯田まちづくりカンパニー、おひさまエネルギーファンド
施設の種類の	タウンマネジメント会社、市民ファンド
導入施設	—
施設規模	—
所在地	長野県飯田市
運営主体	(株)飯田まちづくりカンパニー、 おひさまエネルギーファンド株式会社

仕組み、特徴など

「まちの新しい運営組織」

○先進的な事項

まちの新しい運営組織として「タウンマネジメント会社」や「市民ファンド」が出現している。タウンマネジメント会社は、中心市街地の活性化や建物の維持管理等を活動の主体として成立。今後はまちの環境を維持・向上させる役割が将来の展開として期待されている。ただし運営面では安定的な収入源の確保が課題（毎年の補助金等を充当）。

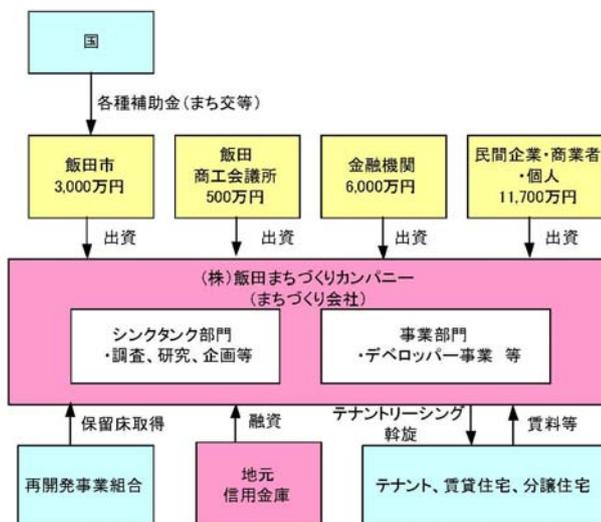
一方、市民ファンドは順調に成長して来たが、損失リスクを持った金融商品であることや、収益の柱である売電も電力の買取金額は見直しが前提のため事業リスクを伴っている。

○概要（タウンマネジメント会社）

- ・(株)飯田まちづくりカンパニーは、社内に再開発やテナントリーシングなどを行う事業部門とは別に、事前調査（アンケート等）に基づくニーズ把握などを行うシンクタンク部門を設け、独自の調査・研究結果に基づく身の丈にあった事業を実施。

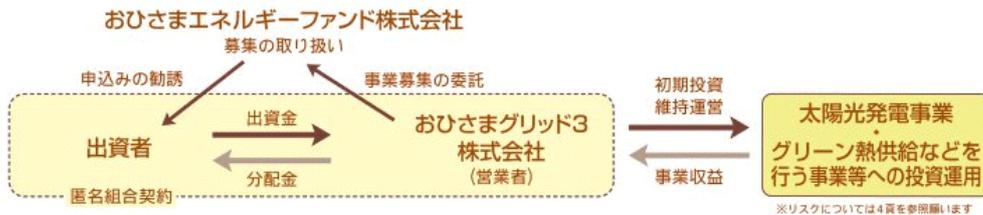
【基本コンセプト】

- ・商業だけでは活性化できない。生活に必要な機能を集積させ、定住人口を増やす。
- ・住民が安心して集まることのできる場所を提供する。
- ・これらを実現するために、都市機能再編のための再開発を実施する。
- ・再開発にあたっては、事前の調査に基づいた、身の丈にあったまちづくりを実施する。



○概要（市民ファンドによる未利用・再生可能エネルギーの活用）

- 「おひさまエネルギーファンド株式会社」（平成16年12月設立、資本金：1,000万円）は、環境省の「環境と経済の好循環のまちモデル事業（平成のまほろばまちづくり事業）」として選定された飯田市の事業を担う民間企業として、NPO法人南信州おひさま進歩、が母体となって設立。
- 「おひさまファンド」は温暖化を防止し、持続可能な社会を実現するため、市民のお金で日本国内の自然エネルギーを増やす仕組み。
- 事業からの利益分配を受けられるおひさまファンドは、寄付ではなく出資。売電収入やサービス料金収入から得られる事業収益に応じて、出資者には、元本の返還と利益分配が行われる計画。過去のファンドも順調に配当。



ファンド名	地域MEGAおひさまファンド匿名組合	
営業者	おひさまグリッド3株式会社	
募集総額（上限額）	4億円	
募集区分	A号匿名組合契約	B号匿名組合契約
申込単位（1口金額）	1口 10万円	1口 50万円
募集口数	2,000口	400口
目標年間分配利回り ^{※1}	2%	3%+プレミアム配当
契約期間	10年	15年+5年 ^{※2} プレミアム期間
分配金支払日	決算日（毎年9月30日）から3ヶ月以内（12月31日まで）	
申込手数料	出資口数に関わらず、1契約につき5,250円（税込）	
中途解約	できません	
募集期間 ^{※3}	2012年7月30日～2013年2月22日 ※先着順	
契約の承継	出資者たる地位を承継する者（現金分配を受領する者）を予め決めておくことができる特約条項があります。	



- 2007年11月～2008年12月末
太陽光発電をはじめとした自然エネルギー事業や、省エネルギー事業に対して市民出資（温暖化防止おひさまファンド）を募集。個人・法人あわせて653名より、4億3430万円を調達。
- 2009年6月～2009年12月末
太陽光発電事業を中心とする「おひさまファンド2009」を募集。個人・法人併せて145名から7520万円を調達。

投資方法	営業者の直接事業		他事業者への投資運用		
事業主体	おひさまグリッド3		播磨の国みどりのエネルギー一画	ソーシャルエネルギー一画	有責任事業組合クラウドエナジー
事業地域	長野県南信州・諏訪地域及び一部三重県その他地域		兵庫県三木市	長野県松本地域	長野県北信地域
プロジェクト名	メガさんぽおひさま発電所プロジェクト	おひさま0円システム2012匿名組合	播磨の国おひさま発電事業匿名組合	松本地域おひさま0円システム2012匿名組合	ベレットストープ初期投資ゼロ事業匿名組合
事業内容	太陽光発電事業	太陽光発電事業	太陽光発電事業	太陽光発電事業	グリーン熱供給事業
事業予定額	3億7,600万円	4,000万円	3,000万円	6,000万円	2,000万円
ファンドからの投資予定額	2億8,000万円	2,000万円	3,000万円	6,000万円	1,000万円
事業期間	2012～2032年	2012～2021年	2012～2032年	2012～2021年	2012～2021年

